

# I 進路について考える

## 1. はじめに

今日、少子高齢化社会の到来、産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が進む中、就職・進学を問わず、高校生の進路をめぐる環境は大きく変化しています。

また、働くことや生きることへの関心・意欲の低下、進路意識や目的意識が希薄なまま進学・就職する若者の増加などについても、指摘されています。

このような中で、皆さんが「生きる力」を身に付け、社会の激しい変化に流されることなく、それぞれが直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくことが求められています。

そのためには、自分の適性などについて理解すること、社会や職業について理解すること、その上で、自分にふさわしい進路を選択し、その実現に向けて努力していくことが必要です。

この冊子は、その参考にしてもらうために作られました。

## 2. 自己理解を深めよう

わかっているようで、実はあまりわかっていない自分自身。進路選択のためには自分をいろいろな側面から分析して、自分をよく知ることが必要です。

次に自己を知るための手だてを挙げます。(a)～(c)の結果を照らし合わせて、自分の姿をとらえていきましょう。

(a) 自己分析……………生活・態度・行動・考え方・感じ方・日記・作文などから内省して、自分で自分を分析すること。好きなこと、がんばれること、それほど好きでもないのにうまくできてしまうことなどを思い起こしてみましょう。素直に、でも主観的になりやすいので、冷静に、公平に、客観的に自分を評価しましょう。

(b) 他人の評価……………両親・兄弟・先生・友人などの第三者の観察や評価。(a)で気がつかない自分の一面を知る手がかりになります。是非、評価の根拠についても聞いてみましょう。

(c) 各種検査……………性格検査、進路適性検査、職業適性検査、職業レディネステストなどの検査。自己分析や他人からの評価ではわからないことも検査結果から知ることもあります。本校では進路適性検査以外にスタディーサポートを実施しているので、出た結果を自分で、あるいは保護者や担任の先生と、よく分析しましょう。また、インターネットを利用して(28頁参照)、簡単な適性テストなどを受けることもできます。ただし、営業目的のサイトもあり、無料であっても、個人情報を送信する場合などは、注意しましょう。

### 3. 社会や職業についての理解を深めよう

テレビドラマの主人公が就いている職業にあこがれる人もいるかもしれませんが、そこで描かれているのはほんの一部に過ぎません。人目につかない苦勞もあれば、それゆえの満足感もあります。これらは、やはりその職業に就いている人にしかわからないでしょう。

まずは、身近な人、保護者や親戚の人などに、社会に出ること、職業に就くことなどについて、聞いてみましょう。意外な答えが返ってくるかもしれません。

また、希望者が参加する「インターンシップ（15頁参照）」「ボランティア活動（16～17頁参照）」などの活動に積極的に取り組んでみましょう。楽しい、あるいはつらい体験の中から、その職業・活動への意欲や、皆さんの生き方を変える出会いが生まれるかもしれません。

大学・短大や専門学校などについては、オープンキャンパスや体験授業のポスターが掲示されています。これらにも積極的に参加してみましょう。

間接的ではありますが、書物やインターネット（20、22頁参照）を通して、情報を得ることもできます。まずは、図書室や進路公開室（大学の募集要項がある）に行ってみましょう。



### 4. 最善のキャリア選択を

本校での様々な活動を通して、自分の興味・関心や能力適性、社会の仕組みや自分の果たすべき役割などについての認識を深め、最善のキャリア選択をし、その実現に向けて努力をしてください。

これからの自分の生き方が明確になれば、それに基づいて、高校卒業直後の進路を選択できます。希望する生き方を実現するためには、上級学校に進学する必要があるのかどうか。必要ならば、どんな学部・学科に進むべきなのでしょう。また、四年制大学か短大か、あるいは専門学校でなければだめなのでしょう。それとも進学する必要はないのでしょうか。

その決定のためには、できる限りの情報を収集しなければなりません。学部・学科などの内容（同じ学科名であっても、大学によって内容が違ったりします）を知り、将来の職業との関連を明確につかんでおきましょう。また、将来の職業が一定の資格を必要とするのであれば、その資格はどの学部・学科で得られるのか。それとも、すぐ就職して、一定期間の実務経験を積めば獲得できるものなのか・・・。

これらの情報を得るために、図書室や進路公開室を十分に活用してほしいと思います。先輩や知人に尋ねたり、直接、資料をとり寄せたりすることも有効です。また、進路相談室ではキャリア支援グループの職員に相談することもできます。ときには、家庭の状況や家族の意向も進路を決定する際に大きな比重を占めます。自分の進路を家族とよく話し合っておく必要があります。

こうして志望業種や志望校などが決まれば、皆さんがこれからしなければならないことが明確になります。志望業種や志望校に入るために、どんな努力が必要なのか。それを把握し、それに向かって歩みを進めることが肝要です。

具体的には、受験科目や難易度、自分の実力、得意・不得意を検討し、努力を続けること。2、3年次の選択科目も、はっきりした目的意識と自分の能力をしっかりと見極めて選択しましょう。